

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：アド・アール株式会社

定 価：一部 30 円



2017年9月20日

第 412 号

食卓への招き

理事長 稲松義人

9月12日、ホテルコンコルド浜松からのご招待で、小羊学園の運営している浜松市内の6施設から、ご利用者、ご家族、職員総勢112名がビュッフェランチを楽しむ機会を与えられました。同ホテルは、これまで毎年、地元の社会福祉施設等の関係者を招待されており、そのなかで今年是小羊学園に声をかけてくださったということでした。

確かに、地元の新聞のページをめくると、色々な人たちが、福祉施設を訪問して下さったり、施設で暮らす子どもたちをイベントに招待して下さったりという、心温まる記事を見ることはよくあります。今回のようなご厚意の一つひとつの積み重ねが、人に優しい地域社会をつくっていくのではないかと思います。

ホテルの総支配人さんをはじめ、今回のイベントを中心になって計画して下さった方たちからご挨拶いただいたおり、私が御礼を申し上げますと、ホテルの総料理長さんが、「皆さんに食事を楽しんででもらえることが、私たちの喜びの原点なのです」とこやかにお話くださいました。相手の喜びのために労することに喜びを感じることができる。大袈裟に

聞かえるかもしれませんが、私はそこに平和な社会の原点もあると思っております。

実は、昨年7月、相模原市の施設で大勢の犠牲者を出した事件は、一般の方たちは年月の経過とともに少しずつ衝撃が薄らいでおられるかも知れませんが、重い障がいのある人たちご本人や、日頃彼らと生活を重ねている者たちにとっては、この事件が露にした問題の深さ、課題の大きさに、何ともやり切れない思いを背負わされたような気がしています。これまでも重い障がいのある人たちの生活を思うと本当はこれではいけないと思われような不便さがあることは感じていたし、ある時は彼らが一般的な生活環境からは排除されていると感じることは少なからずありました。しかし、そのことに私たちは本当に憤りを感じてきたのだらうかと自省しています。

今回の事件の被告人のように、重度障がい者の存在そのものを否定するような発言を「これが本音ではないか」とあからさまに突きつけられると、それに対する強い怒りと同時に、罪深い人間社会の悲しい現実には、どう立ち向かっていけばよいのだろうかという閉塞感を感じてしまいます。

先日、関係の深いキリスト教社会福祉法人からの依頼で、職員研修の一コマで社会福祉の仕事とキリスト教の話をさせてもらった。ひとこと言ううと、聖

書からイエス・キリストが私たちに示されたことを学んだのですが、私は、聖書の話の中に、イエス・キリストが貧しい人、病人、社会から蔑まれていたような人たちと一緒に食事をなさること場面があることを思い出しました。社会的な地位のある人たちは、それをよく思わず、なぜ、イエスは「あんな人たち」と食卓をとにもするのかと問い詰めますが、イエスは、むしろ、そのような人たちを食卓に招くことこそが、神の御心であると話されます。

ホテルの円卓を囲んで楽しく食事をする小羊学園の人たちを見ながら、ここに私たちのなすべきことのヒントが示されていると思われました。

家庭の都合で一人ぼっちで食事をせざるを得ない子どもを招いて一緒に食事をしようという「子ども食堂」という取り組みが浜松でもはじめられているというのを聞きます。たまには一緒にお昼を食べようと、地域のお年寄りたちが集まるお食事会を計画する人たちもいるそうです。こんな小さな交流の中に、障がいのある人たちも、お年寄りも、孤立しがちな子育て家庭も、周りから支えられて生きることが出来る地域がつけられていくのでしょうか。

心のこもった美味しい食事をともにする楽しい食卓、それは、明るい未来の原点なのではないですかと、励まされる思いでホテルをあとにしました。

子どもたちの放課後タイム

小羊学園は放課後等デイサービス事業を浜松市内5か所で実施しています。特別支援学校／特別支援学校に通う子どもたちの最近の様子を、各エリアを代表して3事業所の方に報告してもらいました。

「川遊び(アクティ森)に初挑戦」

第2ドルチェ 松本 広恵

「今日、川遊び行く?」

ちよつぷり不安げな表情を見せながら大きな浮き輪を抱えて通所してきた子どもたち。あいにく朝から小雨が降っている状態での通所。判断に迷いつつも「行って駄目なら諦めよう。納得いかなよね。」とスタッフ間で話し合い決行!この日のために、マイクロボスをお借りし、スタッフも増員。利用者14名+スタッフ8名 特別感満載で現地に向け出発。

ワイワイ・ガヤガヤと賑やかな車内。待ちきれない様子で車窓を眺める子や、何故か楽しみのあまり、早起きして既に寝てしまった子もいました。

1時間程車を走らせ現地到着。すぐにも遊びたい気持ちを抑え、先ずは腹ごしらえ。机敷席にて皆で昼食を食べたのですが、気持ちは川に……。好奇心旺盛な子どもたちは「早く〜」とスタッフの手を引っ張りながら入水。感覚過敏な子どもは、(サンダルを履いて入水?)川を目前になかなか一步を踏み出せませ

ん。初めての場所は苦手な上に、普段は危ない場所と言われ入ってはいけない場所に入るなんて……。子どもたちの表情は様々でした。それでも、スタッフの言葉

がけや、お友達の様子を見ながら、少しずつ川に近づき、全員川の水に触れることができました。抵抗なく入水できた子は、浮き輪にお尻を入れ、流れに身を任せ大はしゃぎ(勿論、スタッフが流されないように浮き輪のロープを持ち調整。川の流れに逆らいつつ子どもを引っ張るのは体力がいる)。そして、繰り返し必要。子どもたちの笑顔に負け、翌日の筋肉痛覚悟でお付き合ひ。

「おしまい。お片付け」の掛け声に「えー」と言いながらも満足げな表情を見せてくれた子どもたちでした。

帰りの車中は、ウトウト…。と思いきや、行き同様ワイワイ・ガヤガヤ。疲れを知らない(これが若さですね)。

今回の川遊び、安全確保、予測不能様々なリスクはありましたが、結果は大成功と言っているのでは……。子どもたちの笑顔が答えです。今後も、子どもたちの笑顔に後押しされながら新しいことに挑戦し、子どもたちと一緒に経験を

重ねて成長できるそんな事業所でありたいと思った1日でした。



「子供同士の関わり」

ばるしあ 森下 理恵

「放課後等デイサービスばるしあ」は西区大山町にあります。西区ですが姫街道沿いに面した場所にあり、三方原スクエアにも歩いて10分程で行ける距離にあります。

主に特別支援学校に通う子供たちの放課後支援施設です。小学1年生から中学3年生までのお子さんを対象としています。定員は10名で、現在は小学生が13名、中学生が9名在籍しており、毎日10名〜12名の子供たちが利用しています。

平成25年の4月に開所し、5年目を迎えています。職員は施設長、児童発達

管理責任者、支援員が日々子供たちの支援に関わらせていただいています。

放課後デイは、ばるしああの2階にあり、1階は小羊デイケアホームの生活介護のサテライト施設になっています。決して広くはない2階の部屋ですが、毎日子供たちの賑やかな声でいっぱいです。

活動内容としては、おやつ作りや季節に応じた製作、公園に行ったり外遊びをしたり、部屋で自由に好きなおもちゃで遊んだりして過ごしています。

何の仕切りもない部屋なので、子供たちの動きは職員がいつでも確認をすることが出来ますが、部屋を分ける事ができないので、みんなでスペースを譲りあったり、自然と周りの子供たちを巻き込みながら一緒に遊びだしたりすることも見られます。同じ空間で過ごすことにより、子供たち同士の関わりがより深いものになっていると思います。

小学1年生から中学3年生までが同じ空間で過ごすことは、小さい子供たちのお手伝いを進んでやってくれる子供たちや、成長と共に自分のやるべき事を意識して行動する子供たちがいます。自然と小さい子供たちは、お兄さんお姉さんの行動を見て真似をすることがあります。おもちゃの出し入れや片付け、おやつ準備やお掃除のお手伝いなど、誰かが率先して行動すると他の子供たちも一緒にやったりする場面があり、職員の私たちがとても嬉しく思います。

ばるしあで大切にしたい事として、年齢の幅があるからこそ、子供同士の関わりを大切にしたいと思っています。子供たちだけでは難しい部分を職員が入りながら、子供たちの成長をゆつくりと見守っていきたいと思います。



「居心地良い場でありたい」

わか な 河合 香里

わかなは、浜北区の北部で県立森林公園に近く、周辺には田んぼが多い場所にあります。春にはツクシやチョウチョウ、夏には水田やカエル、秋にはトンボや稲刈り、秋から冬にかけての紅葉と季節を感じられるのどかな環境の中にあります。

現在定員は20名で、浜北特別支援学校と隣隣発達学級の小学部、高等部の

児童・生徒の皆さんにご利用頂き放課後の時間を楽しく過ごさせて頂いています。

わかなでは、毎月第三週のおやつがパンとなり、併設しているオリーブの樹でつくられた出来立てのパンを提供しています。学校送迎の車内では、「今日のおやつはパン？」と確認があつたり、「メロンパンあるかなあ」等と心待ちにしている会話が聞こえてきます。種類のパンを用意しているので自分で選ぶ楽しみもあります。毎回同じパンを楽しむにしている子や大きいパンを選ぶ子、お友達と一緒にのパンを選ぶ子等、その子その子ではあるのですが、おいしそうにパンにかぶりつく表情からも窺い知ることが出来ます。

今年も夏休みには、施設敷地内のプールで水遊びを行いました。泳ぎが上手になり得意げな顔の子がいたり、お互いに水を掛け合い楽しそうな子がいたり、ビーチボールで遊んでいる子がいたり、思い思いに楽しんでいただけののではないのでしょうか。楽しい雰囲気を感じ取ってか、プールサイドには、カエルも遊びに来て子どもたちだけでなく職員も歓声も響いていました(笑)。その他にも、すいか割りやカラオケ、おやつのおもてなし等のレクリエーションも取り入れ、放課後の時間とは違った子どもたちの表情を見ることが出来ました。

わかなとして、子ども一人ひとりの成長を見守り、時には手助けし、保護者の方々と一緒に喜び、感じられるよう支援しています。また、子どもたちの課題に対して家庭や学校、相談事業所等と連携して、解決のための方向性を統一していけるよう情報の共有はとても重要だと考えています。他にも、将来を見据えた上で大なり小なりの集団生活を余儀なくされることが予想されます。成長段階・発達段階がそれぞれ異なる子との集団の中で子ども一人ひとりが、いかに居心地良く過ごせるかという職員の環境設定はもちろん、子どもたち自身も与えられた環境の中でどう折り合いをつけていくか、という経験の場であるとも考えています。私たちは、職員自身が笑顔で対応することを心掛けています。また、子どもたちにとって楽しい・居心地良い場所でありたいと願っています。



浜松市放課後連の事務局として

ばるしあ施設長 紅谷 純

浜松市には放課後等デイサービス事業所が75箇所あります。そのうち、現時点では54事業所が集まって、浜松市障がい児放課後支援連絡協議会(放課後連)が組織されています。ここ数年、小羊学園で事務局をしており、今年度からばるしあで担当しています。

放課後連は、障害児の放課後支援の法制度がなかった時代に、市内の7事業所で立ち上げられ、事業運営に関する課題を共有し、浜松市と交渉したり、お互いに協力して職員研修を行ったりしてきました。時代とともに徐々に制度が整い、放課後支援事業所数はここ数年爆発的に増加していますが、それによつて新たな課題もでてきます。放課後連では、年に2回の協議の場をもって課題を共有しつつ、行政や学校との意見交換や、放課後支援の啓発に取り組みたいと願っています。また、研修については、研修委員会を組織して、身近な方に講師をお願い年6回の研修を実施しています。

事務局の役割は、会計や会議録を整理することのほか、新しく加入する事業所に対して放課後連についての説明をしたり、事業所間の連携のための調整役をしたり、研修のための会場との連絡をとったり、多岐にわたります。

第6回オリーブ祭り開催 オリーブの樹

9月9日(土)に浜北区尾野にある生活介護・就労継続支援B型事業所【オリーブの樹】でオリーブ祭りが開催されました。前日の準備中にもゲリラ豪雨があつて心配していましたが、開催時間中は何とか持ちこたえてくれました。今年も、3団体の皆さまが音楽イベントで演奏を披露していただき、会場を盛り上げてくれたり、近隣施設の授産製品や食品の販売もあり、賑わいをみせていました。また、裏方仕事のボランティアもご協力いただきました。こうした地域の皆様に支えられて開催できたことに感謝！です。また、職員が腕を奮った模擬店や、就労継続支援B型利用者が運営したBoothも盛況でした！



ビュッフェランチ ご招待いただく

浜松地区生活介護事業所

巻頭でも報告のあつたように、9月12日にホテルコンコルド浜松様から、ビュッフェランチのご招待をいただきました。小羊学園浜松地区の生活介護事業所6施設の利用者・保護者・職員総勢112名が出席しました。開催にあたり、ホテル総支配人鈴木様、総料理長飯塚様からご挨拶をいただき、ランチタイムの始まり。ビュッフェメニューは、前菜料理・海鮮料理・お肉料理・デザートなど全27品。食材は関連企業12社様のご提供くださいました。豊富なメニューから自分の好きな物を選び、舌鼓を打ちました。嚙下食加工が必要な利用者には、法人栄養士がホテルの厨房をお借りしみんなと同じメニューをいただきました。このような機会を与えてくださった、ホテルコンコルド浜松様に改めて感謝申し上げます。



鈴木保博ホテル総支配人様

わかぎ秋祭り

日時：平成29年10月22日(日)
10:00 ~ 14:30
ところ：支援センターわかぎ
浜松市浜北区平口5042
催し物：【イベント】フラダンス・ゴスペル・吹奏楽
模擬店・フリーマーケット・授産製品販売
◇問合せ：支援センターわかぎ 担当：金森 / 酒井
TEL：053-587-2614



小羊学園を支える会

2017年度 寄付金報告

8月 受付分 352,300円 (16件)
累計 1,251,629円 (74件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

編集後記

9月初旬に静岡県災害福祉広域支援ネットワーク(通称静岡DCAT)の登録員研修に参加した。静岡DCATは、地震や水害等の大規模災害時の発災後5日から1か月間の応急期に、避難所で要援護者を福祉避難所や福祉サビスに繋げる役割を果たす。今後、大規模災害が発生した際に、被災自治体から要請があれば、1チーム5人で現地派遣に赴くことになる。また、研修を通して防災対策を再考できる良い機会となった。

少しづつ暑さが過ぎやすい時期となりましたが、温度差も激しいですね。体調管理に心掛け、平安の日々が続きますように。